

RPS NETWORK

日本鉄道保存協会 会報

Railway Preservation Society of Japan

2023年7月号



京急ミュージアムにて。2022年9月16日 (撮影/赤羽 誠)

鉄道開業150周年を振り返って

日本鉄道保存協会事務局長 米山淳一

新橋—横浜間が開業してから2022年10月14日で我が国の鉄道はめでたく開業150周年を迎えた。比較すべくもないが日本鉄道保存協会は1990年に設立され、この記念すべき年に満32歳となった。財団法人日本ナショナルトラスト、公益財団法人交通協力会、そして2019年からは公益社団法人横浜歴史資産調査会が代表幹事団体となり、事務局を引き継いでいる。鉄道発祥の地横浜との縁を感じ、150周年記念事業を行いたいと考えるのはごく自然の成り行きだった。しかも、史実を辿れば、新橋よりも先に横浜—品川間が開業している。当時、貿易港として整備半ばの横浜はまさしく鉄道と舟運の新たな拠点だった。こうなると横浜に根を下ろした当保存協会としては、なんとでも記念事業を行いたいとの思いが高まっていった。

そこで、公益社団法人横浜歴史資産調査会と力を合わせて2020年に鉄道開業150周年記念事業委員会を設置し、身の

丈にあった事業を企画した。ところが資金の目途が立たない。そこで、関係の皆さんにお願いがあがった。文化庁に相談したところ、お陰さまで日本博の助成金を全国近代化遺産活用連絡協議会(事務局・舞鶴市)を通じていただくことができた。また、横浜市都市デザイン室と協議し、「歴史を生かしたまちづくりセミナー」を鉄道とまちづくりをテーマとした内容で開催、さらに公益社団法人日本観光振興協会主催の「ツーリズムEXPOジャパン2022」関連事業の支援を行うなど、結果として盛りだくさんの事業展開となった。

英国やドイツの様に歴史的車両のオンパレードにはほど遠いが、JR各社や鉄道事業者とは一味違い、鉄道を文化財や生活文化の視点からとらえ、様々な事業を実施したことは、関係の皆様のご支援、ご協力の賜物である。何よりも、改めて鉄道の歴史と文化に敬意を表することができ、幸せである。

2022年度横浜総会・見学会開催報告

■2022年度総会・見学会プログラム

- 日 時／2022年(令和4年)9月16日(金)～17日(土)
- 開催地／神奈川県横浜市
- 総会・講演会・シンポジウム会場／横浜みなと博物館会議室

■9月16日(金)

12:50 横浜みなと博物館特別展示室入口集合

13:30 横浜みなと博物館出発(バス移動)

- ・横浜市電保存館
- ・本牧公園 D51と旧国鉄横浜機関区転車台
- ・神奈川臨海鉄道横浜本牧駅とC56
- ・瑞穂橋梁
- ・京急ミュージアム

18:30 情報交換会／横浜中華街 菜香新館

■9月17日(土)

10:30 総会・シンポジウム受付開始

11:00 総会

挨拶／顧問 菅建彦氏

(12:00～13:30 昼食・自由行動)

14:00 開催地報告

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・米山淳一氏

14:10 記念講演

「鉄道遺産をまちづくりに生かすー汽車道の魅力」

公益社団法人横浜歴史資産調査会社員・ものづくり大学名誉教授・増淵文男氏

15:00 活動報告

- ・遠軽町(丸瀬布森林鉄道) 参与・倉内健一氏
- ・東武博物館 元館長・当会顧問・花上嘉成氏
- ・愛岐トンネル群保存再生委員会 理事長・村上真善氏
- ・北九州線車輛保存会 代表・手嶋康人氏

16:00 シンポジウム

コーディネーター 高崎経済大学名誉教授 当会顧問
大島登志彦氏

16:30 終了・解散

鉄道創業の地であり、当会の事務局がある横浜の地で2022年度の総会・見学会を開催しました。コロナ感染症は、ワクチン接種や医療機関の尽力のおかげでだいぶ良くなってきていましたが、まだまだ予断を許さず感染対策にも気を抜けない状況の中ではありましたが、全国から見学会・交流会64名、講演・シンポジウムには78名の参加がありました。

1日目は、初代横浜駅のあった現在の桜木町駅前にある横浜みなと博物館に集合。みなと博物館の特別展示室で開催中の『私たちのまちの鉄道遺産～横浜・神奈川を中心として～』を見てから2台のバスに分乗して、見学会に出発。見学会終了後は横浜中華街でバスを降り、菜香新館で交流会を行いました。横浜には多くのさまざまなタイプの宿泊施設があるので参加者のご希望に合わせて選んでいただけるよう宿泊は各自で手配して頂きました。

2日目は、前日集合したみなと博物館の会議室で午前中総会、午後から講演、活動報告・シンポジウムを行い、昼食時間もフリータイムとして、会議室からすぐの汽車道を見学するなど「みなと・鉄道・ヨコハマ」をたっぷりと体感していただきました。



▲D51が保存されている本牧公園



▲横浜市電保存館

▶かつて瑞穂埠頭に続いていた鉄道の瑞穂橋梁



▶京急ミュージアム



▲▼神奈川臨海鉄道横浜本牧駅。C56が保存されている



▲横浜中華街で行われた情報交換会



▲9月17日の総会、シンポジウムの様子。会議室の窓から汽車道が見える



鉄道開業150周年記念事業報告

当会の代表幹事団体である公益社団法人横浜歴史資産調査会は、鉄道発祥の地である横浜の使命として、2020年度に鉄道開業150周年記念事業委員会を設置して検討を重ね、地域に根差した各種記念事業をおこないました。日本鉄道保存協会の2022年度横浜総会・見学会はこの一連の行事と連携し、協力関係のもとに実施しましたので、合わせてご報告します。

結果として既に150周年を向えた英国、ドイツ、フランス、ベルギー等のように鉄道の業績を称えるスケールの大きな記念事業は出来ませんでした。しかし、地方路線がモータリゼーションや過疎化などにより廃線の危機にさらされている今こそ、鉄道の歴史と文化に敬意を表し、鉄道への愛情を深めたく存じます。鉄道は将来に亘り私たちの頼りになる存在として、いつまでも良きパートナーであって欲しいものです。

稚内からも鹿児島からも横浜に鉄道は続き、繋がっています。先達の築いた鉄道は日本国の命綱、まさに永遠の宝物なのです。(事務局長 米山淳一)



①150周年記念ロゴの作成。

制作(文字)は、篆刻家の古田悠々子先生作品。

②鉄道遺産調査および調査報告書『鉄道の記憶』作成



横浜市内を中心に神奈川県内約200カ所の鉄道遺産現況調査を10名の調査員によって実施。約200件を収録した報告書『鉄道の記憶』を編集・製作し、関係者、セミナー参加者などに配布。

③記念展示『私たちのまちの鉄道遺産』開催

鉄道遺産報告書の作成とともに、写真、データを活用し、約150点を横浜みなと博物館特別展示室で展示。展示期間18日間の入場者数は約1500人。



④セミナー、シンポジウム開催

全国近代化遺産連絡協議会主催、日本鉄道保存協会主催、横浜都市デザイン室と共催の以下3本を開催

1. 全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会セミナー
9月15日(木)13:00～ 横浜みなと博物館会議室
開催地挨拶:公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・森まゆみ氏
開催挨拶:全国近代化遺産活用連絡協議会顧問・菅建彦氏/文化庁文化財保護部建造物課 参事官付文化財調査官・北河大次郎氏

基調講演「神奈川・横浜の鉄道遺産の魅力」

鉄道総合技術研究所担当部長・小野田滋氏

事例報告/小坂町(秋田県)、桐生市(群馬県)、NPO法人碓氷峠歴史文化遺産研究会(群馬県)、公益社団法人横浜歴史資産調査会(神奈川県)、NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会(愛知県)、しなの鉄道株式会社(長野県)、京都市(京都府)、新居浜市(愛媛県)、大牟田市(福岡県)、荒尾市(熊本県)



2. 日本鉄道保存協会見学会・シンポジウム開催 (p2参照)

3. 第44回歴史を生かしたまちづくりセミナー

『鉄道の記憶を生かした横浜のまちづくり』開催

9月18日(日) 14:00～17:00 横浜みなと博物館会議室

●講演1:全国の鉄道遺産を生かしたまちづくり 米山淳一氏((公社)横浜歴史資産調査会常務理事) ●講演2:横浜の都市と鉄道の歴史 岡田直氏(横浜都市発展記念館主任調査研究員)

●講演3:歴史を生かしたまちづくり～みなとみらい21・象の鼻パークの整備～北村圭一氏(元横浜市港湾局技術担当部長)対談:「象の鼻パーク整備における鉄道遺産の保全活用」



⑤ツーリズム EXPO ジャパン 2022 開催協力

配布資料作成、ブース運営協力、シンポジウム参加



⑥その他の活動

1. 『ヨコハマヘリテイジスタイル』に「鉄道開業150周年にむけて」連載(6回)
2. 『旅行新聞』に「鉄道開業150周年を契機に」寄稿(8回)
3. 横浜都市発展記念館に展示
常設展示室の一角に、記念誌「鉄道の記憶」から横浜の遺産を抜粋しパネル展示。あわせて、日本鉄道保存協会会員の紹介展示

■ 故・青木栄一先生を偲ぶ会開催

- ・2023年5月13日(土)
- ・日本交通協会・大会議室(丸の内新国際ビル9F)
- ・オンライン参加あり

2020年5月4日に永眠されてから3年。新型コロナウイルスの世界的流行で、先生のこれまでのご功績に感謝し、故人を偲ぶ会を開催することができませんでした。感染状況が落ち着き、ようやく開催することができました。

とはいえまだまだ予断を許さない、万全な方策での開催をとのことで、会議室でスクール形式の着席で、酒食なしの会になりました。発起人でもある当会の菅建彦顧問の開会の辞に続いて、老川慶喜氏(立教大学名誉教授)の「お別れの言葉」、当会の米山事務局長はじめ9名の方々が「故人の思い出」を語りました。交通地理学会をけん引し、鉄道趣味や保存活動を高い境地に引き上げたご功績をじっくり振り返り、各学会へのご尽力、お人柄にあらためて感謝をささげる会になりました。



偲ぶ会の会場風景

■ えべつ1/1会 「日本鉄道保存協会登録記念フォーラム」開催

★テーマ『鉄道の歴史を活かしたまちづくり』

2022年11月13日(日)、江別市コミュニティセンターにて、えべつ1/1会主催、江別市教育委員会後援で、上記フォーラムが開催されました。当会の米山事務局長が「歴史を活かしたまちづくりと地域活性化」について、高橋一宇顧問が「江別市内における鉄道遺産の現況」について講演をおこないました。



RPSJ
information

えべつ1/1会は、昨年5月に、正会員に登録されました

■ お知らせ

●2023(令和5)年度日本鉄道保存協会総会・見学会は、秋(10月以降)にザ・ヒロサワシティ(茨城県筑西市)で開催の予定です。
※鉄道開業150周年事業に追われ、2022年度の会報が1回しか発行できなかったことをお詫びします!

■日本鉄道保存協会 会報 2023年7月号 編集・発行/日本鉄道保存協会
事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会内
TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/info@rpsj.jp
※常勤者はありません。お急ぎの連絡は右宛にお願いします。米山淳一(事務局長):080-5525-1571
ホームページ <http://www.rpsj.jp/>

訃報 日本鉄道保存協会顧問 小池滋氏 ご逝去

- ・2023年4月13日
- ・英文学者
東京都立大名誉教授 91歳



「SLあそBOY」の前で。2003年4月

当会設立時からさまざまなご指導、ご尽力を頂いた小池滋先生がお亡くなりになりました。先生はディケンズをはじめ19世紀英国文学の研究者で訳書に「オリヴァー・トウィスト」「リトル・ドリット」などがあるとともに、熱心な鉄道愛好家であられて、毎日出版文化賞を受賞した図書「英国鉄道物語」など鉄道に関わる著書、著作もたくさん残されました。

うなずきながら、「文化というものはね、普通の生活の中にあるものなんだよ」とにこやかにおっしゃられていた姿がなつかしく思い出されます。ご冥福をお祈りします。

REPORT ■ 北海道「山田コレクション」報告

2022年度も高橋一宇顧問が毎月現地を視察し、建物の損傷部分の修理や夏は雑草、冬は降雪の状況を管理して下さいました。またこれまでも補修作業を行っていた屋外に置いてある102号機のブルーシートがぐちゃぐちゃに劣化したため、この4月に取替作業を行っていただきました。



▲2022年8月。草がかなり伸びてきました



▲2022年12月の冠雪状況。この冬もかなりの降雪に見舞われました



▼2023年4月17・18日に102号機被いカバーをブルーシートからテント地に取替工事を実施しました

